



宝清寺

七月十四日十一時より本山本堂にて
施餓鬼法要厳修

宝清寺住職の長女靖枝と光明寺住職の長男匡彦が四月二十二日、宝清寺本堂で式を挙げ、帝國ホテルで披露致しました。石井匡彦・靖枝新夫妻は宝清寺に近いところに居を構え、当山の副住職としての新しい生活が始まりました。今後は、住職と副住職が力を合わせて、当山の充実発展の為に尽力して参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年もお盆の季節がやってきました。お盆は、亡き人、遠く離れている兄弟や縁者とのつながりを、もっとも強く感じる日ではないかと思ひます。

仏壇は家族のよりどころ
仏壇が各家庭に普及し始めたのは江戸時代のことです。当時は檀家制度の定着もあり、どの家にも必ず仏壇があったといわれています。分家としてもその家の心よりどころとして仏壇があったといえます。仏壇の普及にとともに、仏壇は家の中でも大事な場所に置かれるようになってきました。この伝統は久しくつづきますが、戦災で焼け、家から仏壇が消えてしまいました。戦後、しばらくして経

日本人は自分
づき、新たな
ました。やはり、仏壇は一家の心のよりどころだったのです。また、最近
は仏壇を購入したいという家庭が増えてきています。住宅事情を理由に仏壇を軽視しがちですが、現在の社会的風潮を考えると、現実の欲得ばかり考えず、人間としての心を大切に生かすことを考えたいものです。何事にも精神的「心棒」が欠落しているのではないかと感じられる現在こそ、仏壇が家にあるという事は、一家の大きな安らぎとなるのではないのでしょうか。

仏壇と日本人

の家に仏壇がないことになり
て仏壇を求めるようになり
たゆかりの地、清澄寺旭森の山頂に立ち、
太平洋の彼方から差し上げる朝日を拝して「南
無妙法蓮華經」と唱え、自分の体得した法
華信仰を説いて立教開宗を宣言したので
す。時に三十二歳で名も日蓮と改めました。

その生涯は、まさに波瀾万丈にとみ、何度
も殺されかけたたり、流罪にあたりしま

七月十三日から十六日のお盆に
は、お墓を清め、生花（墓参用の
お花は当山にて準備してあります
のでご利用ください。）を手向け
てご先祖をお慰め致しますし
花を飾り、食物を供え、お経をあ
げるとは、故人に対する感謝の心
をかたちにあらわした報恩の営み
です。

当山では七月十四日十一時より
日蓮聖人立教開
宗七五〇年度讃
お題目納経につ
いて、
立教開宗

日蓮聖人は今から約七六〇年前の承
久四年（一一二二）二月十六日、安房

本堂にて、お施餓鬼法要を厳修致します。
お施餓鬼法要は合同の法要でどなたでも参
加できます。特に、本年新盆にあたる方は
是非参拝されることをお勧めいたします。
お施餓鬼法要終了後には、お斎（とき）の
用意があります。尚、お盆にはお塔婆を建
てて供養する習慣があります。お塔婆のお
申し込みは、同封の塔婆申し込み専用の葉
書をご利用になり、早めにお申し込み下さ
るようお願い致します。又、お盆には糊經
と言ってお寺からお宅にお盆のお経をあげ
て伺っております。新たにご希望の方はお
寺までお申し出下さい。本年は副住職を
えた関係で、昨年と違う僧侶が何うお宅が
あります。よろしくお願ひ申し上げます。管理
寺務所にお申し出下さい。

の漁師の家に生まれました。幼少の頃から
学問を好まれた聖人は、十二歳で天台宗の
名刹寺院だった近くの清澄寺に登り、道善
房という人からいろいろと教えを受けたの
です。十六歳になった秋、道善房の弟子と
して出家され、是聖房蓮長と名を改めまし
た。しかし、聖人は清澄寺だけではもの足
りず、すべての人々を現実の苦悩から救う
ことが出来る仏法を求めて鎌倉、京都、奈
良の名刹寺院において前後十数年、諸宗の
教えを研究した結果、ついに釈尊の教えの
精髓である「法華經」こそがさがし求めて
いた正しい教え（正法）であるとの確信に
達しました。その確信をいだいて建長五年
（一一五三）四月二十八日の早朝、出家し

お知らせ
①秋川仏教会主催「奈良方面」団参旅行予告
十一月十五日（水）から十七日（金）の二
泊三日の日程で、秋川仏教会の僧侶と「奈良
方面」に行く旅行を計画しています。宝清寺
住職も今期秋川仏教会の副会長の立場で、こ
の旅行に参加します。訪れる寺は一般の観光
方とお盆で墓参のおり、資料をご請求下さい。

管理料は寺務処理上なるべく早めにお納め
下さい。尚、三月三十一日に多摩信拝島支店
から機械で入金された方があり、名前の記載
がなく不明となっております。心当たりの方は
管理寺務所にお申し出下さい。
したが、そのつど「法華經」の行者とし
ての自覚が深まり、聖人こそが末代の人
々を救うためにお釈迦様から命ぜられた
上行菩薩の再現としての役割を課せられ
たものであるとの確信を強めました。文
永十一年（一一七四）佐渡流罪が赦され
て鎌倉に戻られた聖人は、再び幕府に
「立正安国論」の趣旨を用いるよう諫言
しましたが幕府がこれを用いようとしな
かったため、身延山にのぼり、以来、九ヶ年
にわたり弟子の育成にあたったのです。弘安
五年（一一八二）静養のため常陸國にむ
かう途中、武蔵国池上宗仲の館でご入滅
されたのです。

日蓮宗では平成十四年（二〇〇二）の
立教開宗七五〇年度讃事業としてお題目
の納経を行います。お題目を書き、祈願
する用紙は当山に用意してあります。お
盆の墓参のおり、当山管理寺務所で用紙
を受け取り、お題目及び祈願文を記入し
一枚につき三〇〇円の納経料を添えて提
出して下さい。一家で何枚でも結構です
ので、ご協力をお願い致します。

お題目納経について
お題目納経料を添えて提
出して下さい。一家で何枚でも結構です
ので、ご協力をお願い致します。